

はじめに

2011年、記念すべき第20回の学術集会を千葉で開催させていただきました。この年はがん登録を取り巻く社会の激変した年でもありました。将来、振り返ってあらゆる点で節目と感じられる年になると考え、集会のテーマを「がん登録のマイルストーン」とさせていただきました。

前年からDPC対象病院の機能評価係数に地域がん登録への協力が盛り込まれ、がん登録が未実施県に一気に広がる結果となりました。2012年度中に全都道府県での実施が見込まれるという状況は予想をはるかに超えたものでした。もう一点、制度面での下支えとしてがん診療連携拠点病院における院内がん登録の普及があります。がん登録が研究の枠を超えて、医療の現場と社会にデータの提供を開始したのです。また関連する臓器がん登録や小児がん登録においても長期予後の把握の重要性が認識され、地域がん登録と連携する動きが始まっています。

そのような折、2011年3月11日東日本を未曾有の大震災と大津波が襲い、加えて福島で原発事故が発生しました。地域の医療システムは崩壊し、放射能汚染の長期影響を評価すべき地域がん登録のシステムも大きな打撃を被ることとなりました。何よりも多くの住民が広域に避難することを余儀なくされ、がん登録がこのような事態に広域での罹患追跡を行うことができるか、私どもにこの課題が突き付けられています。そして放射能への内部被ばくと長期慢性ばく露によって小児がんが増加しないかといった懸念が社会に蔓延し、その評価のために今こそがん登録の真価を問われています。

集会ではこのような背景を受けて、集会声明を採択することといたしました。声明では広域登録・長期追跡・小児がん研究の推進・がん医療の質評価等々を明らかにする基盤統計を社会に提供していく決意が表明されています。声明文は本冊子に収録されておりますので、ご一読をお願いしたく存じます。

(三上 春夫)